令和７年度　帯広百年記念館運営審議会　議事録（概要）

開催日時　　令和７年８月８日（金）　14時～16時
場　　所　　帯広百年記念館２号室
出席委員　　葛西委員、黒田委員、斎藤委員、笹島委員、澤村委員、正保委員
助川委員、手塚委員、幅岸委員、福田委員、水戸委員、山内委員
渡辺委員（13名）　　※欠席委員７名
事 務 局　　村木生涯学習部長、天池生涯学習文化室長、山中館長、枝松副館長、
伊藤係長、森主任、常田主任、大和田主任、松本主任補、曽根主任補
会議次第　　１　委嘱状交付
２　教育長挨拶
３　開　　会
４　正副委員長互選
５　正副委員長挨拶
６　報告事項
(1) 令和６年度帯広百年記念館運営審議会開催状況
７　議事
(1) 令和６年度主要事業実施状況等について
(2) 令和７年度主要事業計画等について
(3) その他
ア　帯広百年記念館資料収集方針（案）について
イ　緑ヶ丘公園エリアビジョンについて
８　その他
９　閉会

議事要旨

報告事項（1）令和6年度帯広百年記念館運営審議会の開催状況

（事務局より説明）

（質疑なし）

議事（1）令和6年度主要事業実施状況等について

（事務局より説明）

委　員：　第三収蔵庫は農機具や大型生活資料を収蔵とあるが、そのようなものに特化した収蔵庫か。

事務局：　第三収蔵庫は、旧空港ターミナルビルの建物を利用した大きな物置のようなもので、高さやスペースがあるが温度・湿度の管理が出来ないため、その影響

の少なく、大型のものを主に収蔵している。

委　員：　地域の自然史博物館などで廃校を利用して化石資料などを保管するスペースのような、温度や湿度に対する影響の少ない農機具や化石、岩石を置ける収蔵スペースという理解でよいか。

事務局：　そのようなもの。

委　員：　リウカの中に書籍約 900 冊とあるが、リウカのスペースに置いてあるのか。かなりの蔵書の数で、一般の方も利用できるのであれば良い事だと思う。

委　員：　リウカの蔵書 900 冊以外に、どこかに他の蔵書の数は記載されているか。

事務局：　蔵書は別にあるが、資料には記載していないため、次回以降改善したい。

委　員：　リウカの来室者は、リウカの目的で来ているのか。それ以外の目的で来ているか分かっているのか。目的に沿った人間が何人位来ているのか。

事務局：　来室者は、リウカの目的に沿った来室と考える。

委　員：　リウカの来室者はどのように数えているのか。

事務局：　入退出の際、自動でカウントするようになっている。

委　員：　常設展示室の修学旅行生の利用について、校数が減っているのは何か理由があるのか。リピーターがいなくなったのか。毎年同じ学校がリピートしてくれている訳ではないのか。

事務局：　申し込みがあり受け入れているため、こちらから積極的にアプローチはしていない。リピートがあるかもしれないが、修学旅行生の利用は学校の意向によるもの。

委　員：　百年記念館主要事業、自然観察会の開催で「アイヌ語で自然かんさつ」とあり、非常に面白い試みである。人文系のものと思われるが、自然史系について専門家が観察会を主催するということは実施しないのか。

事務局：　今後の参考とさせていただく。

委　員：　「アイヌ語で自然かんさつ」に参加したことがあるが、アイヌ語だけに限らず、植物の生態の説明や自然観察などを兼ねており、文化・科学・自然すべての要素を兼ねた行事で心に残っている。人文系に限ったものではなく素晴らしいイベントであった。

委　員：　自然史系の要素を多分に備えた観察会であり、大きな特色がある。

委　員：　百年記念館主要事業について、外部的な事業の記載であるが、学芸員の研修、資質の向上、教育などはこの事業には含まれないのか。

事務局：　この主要事業については、お客様向けの事業を記載しているもの。

委　員：　学芸員の内面的なものに対しては別に予算が用意され実施しているという理解で良いか。

事務局：　学芸員はそれぞれの研究等に日々精進しているところ。

委　員：　事業の目的や主要事項の中に、学芸員の研修や恒常的なことは目的として書

いてあるが、具体的な内容が書かれていない。目的と実際にやろうとしている内容は一致していないのではないか。

事務局：　そのような意味ではこの資料については欠けているところがあるため、外部向けの動きと内部的の動き双方見える形に資料等改善していきたい。

委　員：　今の関連で、帯広百年記念館埋蔵文化財センターの令和７年度の運営・事業計画中、その他事業の中に調査研究と記載がある。この内容も具体的に記載した方が良い。

委　員：　博物館資料収集実績で、６年度収集点数中、人文科学・美術資料は収集があるのに対し、自然科学資料の収集が無いのは理由があるのか。

事務局：　寄附による申し出で、こちらの収集方針に合うものが無かったほか、令和６年度は百年記念館として積極的に取集は行わなかったことによるもの。

委　員：　仮に寄贈の申し出があった場合、受け入れスペースはあるのか。

事務局：　収蔵スペースについては厳しい状況にはあるが、全く受け入れられない訳ではない。点数にもよるが受け入れはある程度可能である。

委　員：　近年アマチュアで自然資料を集めている方が高齢化のため、どこか受け入れ先が無いかという話をよく耳にする。道東地方ではなかなか受け入れてくれる博物館が無いと思われている。百年記念館では受け入れがある程度出来るということが知られていないのではないか。

委　員：　例えば寄贈したいという申し出があったが、断ったことはあるのか。

事務局：　令和５年度、令和６年度については、蝶の標本の受け入れ申し出があったが、既に十勝管内の蝶については寄贈を以前に受けており、受け入れることができなかったことがある。

委員長：　令和６年度主要事業実施状況等について、報告を承認することでよろしいか。

委　員：　異議なし。

議事（2）令和7年度主要事業計画等について

（事務局説明）

委　員：　令和７年度主要事業中、創造活動講座の第44回郷土美術展の開催時期について、毎年冬の寒い時期に開催されており、施設を利用する側として搬入・搬出も大変であり、見に来る方も大変だと感じる。氷まつりに合わせているなどの事情があるのか。

事務局：　集客面やあらゆる要素からこの時期に開催しているもの。例年寒い時期であり今回不便さの話を伺ったため、それを念頭に置きながらスケジュールを考えていきたい。

委　員：　特別展示室はいつも展示で使用しているため、この時期しか取れないのか。

事務局：　常時使用しているわけではないが、空いている時期も、短い場合、長い場合

など様々であるため、バランスを見る必要がある。時期を動かせるかどうかは現時点では申し上げられないが、検討してみたい。

委　員：　令和7年度特別企画展「ヘルマン・ヘッセ昆虫展～少年の日の思い出」について、自然史資料と人文系との融合で非常に興味深い。関連事業で公開授業「みんなで国語の授業を受けてみませんか」とあるが、内容はどのようなものか。事前に募集するのか。

事務局：　元中学校教諭に依頼し、改めて中学校１年生の時に出てくる「少年の日の思い出」を教材に授業を体験してもらう企画。昆虫展を楽しんでいただくためにも、もう一度少年の日の思い出を振り返り、授業を受けていただくもの。事前に申し込みが必要となる。

委　員：　学校教育の視点での意見になるが、百年記念館の施設について博物館的要素と創造活動の要素を併せ持った生涯学習の意味合いの強い幅広い施設。ゆえにポイントの絞れないあいまいな部分で、令和７年度の事業を含め今後の流れについて意見を述べたい。現在学校教育の環境は変わり指導方法も変わってきている。一人一台端末を持ちインターネット設備が十分備わり、インターネット環境のもと学習を進めている。その中で指導する側もそれに対し、研修等を深めながら効果的なものをいかに学びに繋げていくかということで進めている。博物館的な幅広い施設の今後の方向性としては十分考慮しながら運営を続けていかなければならない。出前講座については、学校教育や社会教育も踏まえ、そのニーズに合わせたコンテンツをデジタル資料として用意する事や、施設に来る来館者だけではなく、年齢別、発達別にあわせ、来館出来ない方の事情を考慮しオンラインでの講座を行うなど、様々なコンテンツを使って学びに繋げていく。それが将来の学びや社会教育、生涯学習に繋がる。そのような先の10年20年経ったような意味合いを持った運営をして欲しい。この施設だけの問題ではなく帯広市全体の考えに繋がっていく。その様な思いをもって教職員も子供達の姿に照らし合わせながら取り組んでいるため、是非そこの充実を望んでいる。

事務局：　時代の流れにアップデートしながら事業等を進めていきたい。

委　員：　今の関連で、以前博物館で働いたこともあり、実際その様な要望があり対応したこともあるが、学芸員は通常業務が非常に忙しく、学校現場からの要望に応えるのが難しい。ここも学芸員は忙しいと思う。自分のいた博物館では、外部資金を使い新たに専用の人を雇いコンテンツ作りを担当してもらったことがある。学芸員は多忙なので、今の仕事に加えやって下さいは難しい。市の上層部が配慮し学芸員に負担のかからないようにしてもらいたい。

事務局：　バランスを取りながら、また、工夫しながらやっていきたい。

委　員：　現代の需要はDX化とSDGsであるが、そのような事業内容に全くなっていな

い。デジタルを使った展示があってしかるべきであるのに、残念ながらそのような方向に全く向かっていない。帯広市はSDGｓに向かいPRしているのかというと必ずしもそうではないため、帯広市が率先してやらないということは百年記念館もそれに付随できない。百年記念館の事業として、SDGsに向かい表立ったことをやらないと百年記念館の価値がだんだん下がっていくと思う。学芸員の能力を上げることも含め、市の方で対策を行えば帯広の博物館が凄いことをしている、一回行ってみようじゃないか、そうすることによって内容や展示物が良くなり士気も上がる。プラスの思考で回っていくのではないか。そのようなことを事業に盛り込んで欲しい。

委　員：　自然史研究会としては、日高山脈の国立公園化に合わせて十勝の名前も入ったほか、近年地震や異常気象も多くなっていることから、もう少し地学分野に力を入れていただきたい。

委員長：　長期的なご意見が多いと感じる。令和７年度主要事業計画等について承認してよろしいか。

委　員：　異議なし

議事（3）その他　ア　帯広百年記念館資料収集方針（案）について

事務局：　博物館資料の収集については、平成14年９月１日に制定した「博物館資料の寄贈に関する取扱い基準」に基づき対応してきた。「寄贈に関する」としているが、この基準と同じ考えをもって、今日に至るまで資料を収集してきたところである。この度、運用に合った名称を採用するとともに、収集対象資料の区分を明確にするほか、分野別に対応を定めるなど整理をするもの。この案を基に、各委員からのご意見をもって事務局においてこの方針を完成させたい。

委　員：　大きくカテゴリが分かれているが、それぞれに収蔵庫が独立して存在しているのか。

事務局：　独立して整理するのが理想ではあるが、必ずしもそうはなっていないのが現状。

委　員：　自然史資料と民族資料が一緒に収蔵されているということか。

事務局：　そのようなケースもある。

委　員：　あまり好ましくない。

委　員：　温度・湿度が管理されている等、特別な条件を設定している収蔵庫や収蔵室は存在するのか。

事務局：　第２収蔵庫については空調等により適切に温度・湿度の管理を行っている。その他、十分な収蔵スペースを確保できないため、旧喫茶コーナーなど用途廃止した場所を収蔵スペースとして活用しており、十分な温度・湿度の管理ができないことから影響の少ない収蔵品を保管し工夫しながら進めている。

委　員：　新しい資料収集方針（案）の背景にある「博物館資料の寄贈に関する取扱い基準」は生きているのか。この（案）はどこかの段階で（案）ではなくなると思うがいつ頃の計画か。

事務局：　現在この基準は生きている。方針は今年度中に整理したいと考えている。

委　員：　考え方は良いと思う。すべてを引き受けるものではない。一方で収蔵庫が足りないのも現状でありどう解決するのか。感覚的には収蔵庫が無いから出来るだけ断ろうと考えざるを得ない。博物館として目的が合えば出来るだけ多く集めたいと思うのではないか。収蔵庫の確保を真剣に考えるべき。これを解決しないで収集方針だけ先に作るのはおかしい。はっきり言って建替え。今、百年記念館は本館、市民ギャラリー、西 24 条にある埋蔵文化財センターに分散されている。一か所にまとめて建替え博物館としての方針で明確化すべき。学芸員も増えて来館者も増える。そういう方向に行くと、先程述べた DX や SDGs など皆満足していく。そのようなプラス思考が無ければこの博物館は来館者が減り建物は古くなりますますみすぼらしくなる。

委　員：　自然史系の博物館では、冬に収蔵庫ツアーを日本中で行っており、一般の方がトークを交えながら収蔵庫を見学するというイベントであるが、百年記念館は将来的に実施することは考えていないのか。

事務局：　お話を伺い良いプランだと感じた。ただ、現時点ではそういう考え方は無く、参考にさせていただく。

委　員：　一般の方を収蔵庫に入れるとなれば非公開だと思うが、あまりにも収蔵庫が収蔵品で一杯なのを目にしてもらえれば外部から意見が出ることも考えられる。

委員長：　ここで決めるということではなく、ご意見を参考に事務局で最終案をとしていただきたい。

議事（3）その他 イ 緑ヶ丘公園エリアビジョンについて

事務局：　緑ヶ丘公園エリアビジョンは、令和 7 年 3 月に本市市長部局により策定されたもの。緑ヶ丘公園エリアとは、緑ヶ丘公園と帯広少年院跡地を合わせたエリアになる。緑ヶ丘公園エリアビジョンの目的は、緑ヶ丘公園エリアの魅力向上と土地利用の方向性を示すことにある。少年院跡地については現時点で国等において利活用の計画は無く、今後当地に関する処分方針が策定されることになっており、その過程において本市に対し意見の確認が行われることとなっている。緑ヶ丘公園ビジョンにおける当館関連部分について説明する。

　このビジョンを発端にこれから当館の将来について、様々な形で検討が行われることになる。この件について、ご意見をいただくには材料と期間の不足が否めないが、この機会に各委員からご意見を頂き、今後の検討の際の参考とさせていただきたい。

委員長：　大きな問題であり、既に令和 6 年度の中で色々なところで検討が進められているが、ここでどうこうということではなく、長いスパンで考え方をまとめていく期間が必要。百年記念館の運営審議会としてご意見をいただきたい。

委　員：　ここで言っている百年記念館は本館だけか。埋蔵文化財センター等を含めた百年記念館という言い方なのか。

事務局：　そのような広い範囲を含めたうえでの考え方の整理である。

事務局：　事務局の方である程度テーマを考えてきたところであり、それについて簡単な説明をし、意見を出してもらいたいと考える。

まず百年記念館と児童会館との施設の複合化についてご意見をいただきたい。

児童会館と複合化するメリットとして、一つ目は施設それぞれの来館者の年齢層の違いを補完しあう形になるのではないか。児童会館は幼い方の利用が多く、百年記念館は高めの年齢層の利用が多い。二つ目は用途の似た部屋を共用することによる建築面積の減、すなわち経費削減につながることが可能。デメリットとして、一つ目は両館の性格の違い。静かな博物館と賑やかな児童館。二つ目が児童会館は現在宿泊機能を持っているが、宿泊機能を持った施設と博物館との相性はどうなのか。それら以外にも色々な要素がある。

児童会館と本館の施設複合化について、分館である埋蔵文化財センターも併せて複合化することについてご意見を頂きたい。

また、市民ギャラリーについても複合化の対象とすることが選択肢の一つ。市民ギャラリーの補足として、帯広駅舎の地下を借り運営しており、令和 10 年中に賃貸借契約が満了することになっている。利用者等へ実施したアンケートでは現在地が便利であるという意見が多数である一方、新施設の複合化についてもどうかという意見もある。市民ギャラリーの役目の一つとして、中心市街地活性化もポイントとなる。以上を踏まえ、施設複合化についてご意見を頂きたい。

委　員：　博物館と児童会館を一つの組織にする案であるが、博物館とは資料収集をし、それに基づいて調査研究を行い、その結果を十分に生かした展示などの教育普及活動に生かしていくというものなので、児童会館とは目的等様々な点で違いすぎる。一つの組織にするのはそもそも無理で合わない。しかし、百年記念館は一般的にいう博物館以外の機能もいくつか持っている。博物館は残して一部の機能を児童会館に移すというのは可能なのかもしれないが、完全に一つの組織にするのはやめた方がいいのではないか。

委　員：　帯広市の場合、百年記念館という名前であるが、博物館と創造活動センターの二つのエリアが一体化している。百年記念館を 40 数年運営してきて、その役割として何ができたか、半世紀総括的なことをすると百年記念館のこれから

の課題が浮かび上がってくる。児童会館も同じで、これからの帯広市を考えた時、博物館施設と青少年施設、あるいは生涯学習部全体としての方針が出てくると、中身がはっきりしてくるのではないか。

委　員：　百年記念館という名称は良いのか。作った時はそれで良かったかもしれないが、50 年経ってその意味はどうなのか。旅行者や外部の人は分からない。博物館に特化した名称に変えるべき。議論するときは博物館という名称にするということも是非考慮して欲しい。

委員長：　いつまでに意見をまとめて市としての方針を決めていくのか。

事務局：　いつまでというのはない。まだ議会に諮っておらず、エリアビジョンが 3 月に出たので、それを踏まえた意見聴取である。審議会後でもご意見があれば事務局にご連絡いたき今後の検討に生かしたい。まだ始まる前の段階に今ある。

委　員：　令和 7 年 3 月に示された緑ヶ丘公園エリアビジョンに対して意見を出すことが課題なのか。

事務局：　緑ヶ丘公園エリアビジョンで出されたアイデア等について、今後百年記念館や児童会館がどのように進んでいくべきかを考えていくのがこれからの流れ。その舵取りをするために皆さんのご意見を頂きたい。

委　員：　市民ギャラリーについては、令和 10 年に賃貸借契約が満了し、もし百年記念館が引き受けないとなった場合その後は空き部屋になる。契約上可能なのか。

事務局：　契約上可能である。

委　員：　これからの帯広市の中央部分がどうなるのかということだと思うが、実際問題駐車場が無くなって本当に困っている。駅地下の利用の意味合い。元々は人が集まり良かったかもしれないが今は苦しい場所にある。文化ホールやとかちプラザ、駅を利用するにしても、長崎屋の建物が無くなった事で、研修受けるにしても皆さん大変な思いをしている。そこを帯広市はどうするのか。街中も寂しくなり、何か集客する方が良いかも知れないが、実際行く側としては、これがどのくらい続くのかと思っている。建替えて百年記念館と一緒にした方が良いのではないかと思う。

委　員：　児童会館を毎年利用しているが、築 60 年。親の世代でも宿泊学習は思い出深く帯広市としても代表となる施設。科学館は日本中どこにでもあるが科学館を伴った宿泊施設は全国でも珍しい。そこで科学実験を体験するということは意義がある。この百年記念館も単なる博物館ではなく、歴史や昔の流れの中でそれを見学しての創作活動という意味合いの施設だと思う。単純に利便性ということでの複合化をするのであれば、せっかく築いてきたものが明確にならない。そこをおさえた施設移転として進めることがベストだと考える。更に、幼児から生涯学びという大きな視点で色々な事で関われる総合的な施設となれば

変わる。今後の方向性としては、帯広市だけで進むのではなく、民間連携という方法も今後具体的な話になり、色々なアイデアが出る事を望んで終わりたい。

委員長：　課題は結構大きな事で、まとめるということは出来ない。帯広市の他の関連でも発言の機会があるかもしれないので、百年記念館あるいは博物館というところの視点で色々考えてもらえば良いと思う。

事務局：　次のテーマは建替地。候補地としては、少年院跡地、緑ヶ丘公園の各ゾーンのいずれか、それ以外の３つになると思う。緑ヶ丘公園内については十勝監獄の影響があるため、十勝監獄と緑ヶ丘公園の関係について説明する。

十勝監獄は網走監獄はじめ、同じ明治時期に道内に設置された他の監獄施設と合わせ、北海道遺産に指定されている。そのほか緑ヶ丘公園内にある十勝監獄石油庫は十勝監獄時代の施設で市指定の有形文化財である。十勝監獄施設は北海道並びに十勝・帯広市の歴史を語るうえで重要な遺構であるという認識がされている。ただ、今のところ文化財保護法で言う遺跡、埋蔵文化財包蔵地としての扱いはしていない。文化財保護法の保護対象になる埋蔵文化財包蔵地は、北海道では概ね近世以前の遺跡であり、近現代の遺跡は対象となっていない。市指定の文化財として、個別に保護されている現状。近現代の遺跡で開発行為をすることについては法的な縛りはないが、建設予定地に十勝監獄関連の遺構があるかどうかは、建替地を検討する上で大きな課題となることから、十勝監獄関連遺構の可能性があることも考慮しご意見を頂きたい。東京都港区の高輪築堤跡や、北九州市の旧門司駅遺構など近現代の遺構の取り扱いについて、市民等の保存運動が起こり議論になっているケースもある。

委員長：　方向性が決まって、移転する時に場所をどうしようかということに対する意見を出して欲しいということか。

委　員：　緑ヶ丘公園エリアが先にあってそこをどうするかという議論か。

事務局：　そちらが有力な候補地として認識している。緑ヶ丘公園エリアにあるということで豊かな自然のもと研究・教育活動も出来るほか、緑ヶ丘公園エリア内には様々な施設もあり、それらの施設と連携することで連続性を持ち様々な活動・利用も可能であることから、便利な場所という認識を持っている。しかし、それ以外の場所も選択肢としてはある。

委　員：　ここは百年記念館運営審議会だが、帯広市の博物館をどうするのかという議論はまだ無いのか。

事務局：　それも併せて今後検討していくことになる。百年記念館については、博物館と創造活動センターの二つの機能を持った施設になるが、極端な話をすれば創造活動センターは将来不要であるとなれば博物館単体の建物となる。そういう機能の取捨選択、逆に 50 年 60 年とその建物を使用していくとなれば、現在持

つ機能に加えて他の機能も併せて備えなければならないという考えも出てくる。あらゆるパターンを想定して今後新しい施設が考えられていくと思う。

委　員：　創造活動センターを市役所の中で機構として分離し、それぞれ考えることも必要かもしれない。帯広市あるいは十勝圏の博物館を今後どうするかということも検討しなければ先に進まない。それはまだゴーサインが出ているわけではないのか。

事務局：　これから検討していく段階。

委員長：　時間をかけなければならない課題。今すぐどうこうという事より、具体的でなくても、こういうのが欲しい、こういうべきだとかの議論が次の段階。場所はおのずと決まっていく。緑ヶ丘公園ということも勿論あるが、帯広市の博物館施設をどうしていくかということ。運営審議会としての課題として持たなければならないという理解。

閉 会